

3.11 災害対応訓練



災害想定
3月13日(火)
10:00

- ◆南海トラフ(和歌山南方沖)を震源とする地震発生。
- ◆堺市内「震度6強」の地震発生、沿岸部には津波予報があるが、病院近隣に津波はなし



当院では、毎年3月に災害対応訓練を行っています。災害はいつ起こるかわからない上に、大きな被害をもたらすこともあるため、家庭でも、そして職場でも「備える」ことが大切です。

3回目の訓練となった今年は、東日本大震災から7年目となる3月11日(日)に実施、9時からのオリエンテーションは黙とうから始まり、改めて「備える」ことの大切さを考える機会となりました。

上記の災害想定の中、災害対策本部設置、建物に倒壊の恐れあり、断水、他院への院内負傷患者搬送、他院からの患者受入れなどいくつかの状況、場面を盛り込んだ訓練を行いました。

当日は職員95名が参加し、患者、スタッフ役に分かれ、半日の訓練を行いました。各部署からの被災状況報告書の提出、断水した病棟からはスタッフが貯水槽に水を汲みにいく、また倒壊の恐れがある病棟では通信が不通のため、トランシーバーで応答をするなど、発災の放送を合図にすべてが同時進行で動きまわります。そのため、災害対策本部は終始慌ただしい状態でしたが、初回に比べると、それぞれ役割をある程度把握して(全てがスムーズというのはいきり過ぎですが)、いい訓練ができたと感じます。本部には情報が集まるため、集約に時間をとり、指示が遅れることもありましたが、課題を出して、次につなげていきたいと考えます。

患者さんやご家族様には驚かれたかもしれませんが、安全、安心の医療実践のために、訓練は続けてまいります。ご理解の程、お願い申し上げます。



基本方針

人権を重んじ、患者さんやご家族の「こころ」に寄り添ったやさしい医療を提供します。

質の高い医療を提供するため、すぐれた医療人を育てます。

「光と風と緑」にあふれた、安全で快適な療養環境を提供します。

地域の拠点病院として、保健・医療・福祉に貢献します。

信頼される医療サービスを提供するため、経営の健全化につとめます。

2016.4.1 改定



チューリップ

- 百合(ゆり)科。
- 開花時期は、3月半ば~5月初旬。
- トルコのオーストリア大使がヨーロッパに紹介した。大使が初めてこの花を見たとき通訳に名前を尋ねたが、通訳が、「自分が頭に巻いているターバン(チュルバン)に似ているもの」と答えたために、それが花の名前になった。
- 1635年頃と1732年頃オランダを中心にしてチューリップの球根が投機の対象になり、「チューリップバブル」状態になった。
- 色はさまざま。かわいらしい花。いっぱい咲いてると見事。
- オランダ、ベルギー、トルコ、アフガニスタンなどの国花。

節電にご協力ください。

院内では、節電のため、ライトダウンなど行い、職員へ啓発しています。蛍光灯を間引いたり、こまめに電気のOn・Offや、寒い時期でも室温を上げすぎないようにしています。これは、外気と温度差が大きいと、体にも負担を与えるので、「健康で節電!」を目指して取り組んでいます。ご理解の程お願い申し上げます。



外来診察表

外来診察時間/9:00~12:00(受付は11:30まで)平成30年1月現在

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
1 診	黒田	土井	濱田	横田	黒田	横田
2 診	花房		松島	戎	横井	横井
3 診	松島	島本	植田	白銀	茶谷	植田
4 診	田中	亀田	岩井	加納	広田	岩朝
5 診	佐野	山田	川村			松村
6 診	柴田	長谷川	正路	吉川	小林	
7 診	山本	久保	小深田	橋本	久馬	小深田
8 診	熊取谷	大矢	西村	河野		熊取谷
9 診	上坂	柏木	後藤	大浦	土井	安藤
診(心1)			中井	山下		

*医師の急な都合により、変更・休診となることがございますので、予めご了承ください。
(ご紹介いただく際は予めのご連絡をお願いいたします)



専門外来
(睡眠・児童・往診・女性・口腔)は予約制です。
医療機関からの入院・転院のご相談は地域医療連携室で承ります。受診の前にお電話ください。
TEL.072-278-0381
FAX.072-281-6615

診療科目

精神科/心療内科/児童精神科/内科/歯科/小児科/放射線科/神経内科

病床数

- EPU(精神科救急)病棟 212床(C1,E1,H2,H3病棟)
- 児童精神科病棟 30床(D1病棟)
- 垂急性期病棟 120床(B2,C2病棟)
- 精神科急性期治療病棟 60床(D2病棟)
- メンタルケア病棟 35床(E3病棟)
- 老年期精神疾患病棟 60床(D3病棟)
- MPU(精神科合併症治療)病棟 53床(H1病棟)
- 精神療養病棟 60床(F3病棟)
- 認知症治療病棟 60床(F2病棟) 計690床

関連施設紹介

- 認知症疾患医療センター ☎072-278-0233
- 訪問看護ステーションふれあいサテライト「浜寺石津」☎072-279-1631
- グループホームあんずの郷 堺市中区八田北町309 ☎072-278-2233
- 地域生活支援センターゆい 堺市中区深井沢町3324 FUKAIビル1F ☎072-277-9555
- 堺市発達障害者支援センター アプリコット堺 堺市堺区旭ヶ丘中町4丁3番1号 堺市立健康福祉プラザ内3F ☎072-275-8506
- 医療福祉相談室(直通) ☎072-278-3768
- 就労移行支援事業所 エンワーク 堺市中区深井清水町3544-3 アンシャンテ深井1F ☎072-270-3318
- 居宅介護支援事業所 ☎072-278-0488

やまとメンタルクリニック

「子どもから大人まで、起きている時も寝ている時も、患者さんその家族も、

こころも体も診る」を治療方針として医療実践しています。子ども世代は40%、小学生以下16%とお子さんも多いですが、上は90歳を超える方もおられ、幅広い年齢層の方にご利用いただいています。クリニックはJR、地下鉄「長居」駅から徒歩約3分、子どもさんにも緊張感のない開放的な雰囲気を大切にしています。

- 住所 〒558-0004 大阪市住吉区长居東4丁目4-15
- 電話 06-6655-0262
- HP <https://yamato-mental.com/>
- 最寄駅 JR阪和線「長居」駅下車 徒歩約3分
地下鉄御堂筋線「長居」駅下車5号出口から徒歩約3分
- 診療科 精神科・心療内科 睡眠外来・児童思春期

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
午前 9:00~13:00	○	○	○	—	○	○	—	—
午後 15:00~19:00	○	○	○	—	○	★	—	—

★土曜は13:00~17:00 予約のみ

Dr.情報 院長 和田 大和 先生

☆経歴:奈良県立医科大学卒業
奈良県立医科大学附属病院 初期研修医
2007年 阪南病院常勤医、堺市教育委員会嘱託医、岸和田市民病院などの非常勤勤務の兼務
2015年 さわだメンタルクリニック 副院長
2017年 やまとメンタルクリニック 開院

☆資格:精神保健指定医、日本精神神経学会専門医、日本睡眠学会認定医、コンサータ登録医



E1病棟が稼働を始めています

兼ねてより工事をしておりました、E棟1階の工事が完了し、2月より病棟運営を行っております。入院患者様やご来院の方に負担をかけないよう慎重に、そして安全第一で工事を行ってまいりました。

もともと、E棟1階は、入院病棟として稼働しておりましたが、H棟ができた際に、会議室やリワークセンター、看護実習室、器材庫として利用しておりました。今般、それらの機能を移設した上で、改修工事を行い入院病棟として再稼働した次第です。

E1病棟は定床44床(保護室19床、個室3床、総室22床)を持ち、精神科急性症状の患者さんを中心に受け入れる病棟として、医師、看護師、精神保健福祉士、心理士、作業療法士、薬剤師といった多職種が連携し、早期社会復帰を目指す病棟として動き出しております。



ダイニング



手洗い



保護室

学んで安心「認知症」を開催いたしました

平成30年3月5日午後2時より国際障害者交流センタービッグ・アイ(1階大研修室)にて泉北ニュータウン再生府市等連携協議会と当院認知症疾患医療センターの共催による『学んで安心「認知症」』講座を開催いたしました。事前には堺市の広報誌「広報さかい」にて告知いただき、当日は大雨の悪天候にもかかわらず、60名を超える参加がありました。

当院からは久馬医師による「認知症の基礎知識」と認知症看護認定看護師でもある内藤看護師の「認知症者の世界」の二題をあわせて1時間の講演を行いました。「認知症の基礎知識」では主に疾患別の特徴にふれ、「認知症者の世界」では人としてその方の気持ちに寄り添う対応について説明がなされました。その後は堺市健康福祉局長寿社会部 地域包括ケア推進課及び堺市社会福祉協議会より「堺市の認知症支援の取り組み」として近況や堺市コッカラ体操などの講演が行われました。

このような啓発活動は、安心安全に地域生活をおこなうためには大切な側面になります。これからも正しい情報を適切に発信していきたいと考えます。(地域医療連携室)



羽曳野支援学校 阪南病院分教室

平成29年度 卒業式開催

厳しい寒さが落ち着き、やさしくやわらかな日差しが差し春の訪れを感じるようになりました。3月14日、平成29年度 第5回大阪府立羽曳野支援学校 阪南病院分教室 卒業式が行われました。当日は、ご家族、保護者の皆さん、そして支援学校からは中村学校長をはじめ担任の先生方、当院からは黒田院長、横田副院長など多くの方々が見守る中、中学部から3名が卒業されました。

一人ひとり名前を呼ばれ、無事に卒業証書を授与されました。中村学校長から卒業生に向けてのはなむけの言葉に続き、来賓代表として黒田院長から祝辞をいただき整然とした中、式が執り行われました。そして卒業生からは、一人ずつ思い出の詰まったこの教室で多くのことを学び得たことや、卒業できた喜びと関わった多くの方々に感謝の気持ちを述べられました。

学校と病院の協力体制の中で見守られながら子どもたちは自分自身と向きあい、幾多の困難を乗り越え道を切り開き3名全員が高等学校合格を成し遂げました。これを自信に将来の夢、理想を胸にこれからもそれぞれの目標に向かって前進していきましょう。

ご卒業おめでとうございます。(D1病棟一同)



卒業証書授与



学校長のことば



来賓祝辞



在校生のことば

当院は敷地内完全禁煙です

テーマ「災害医療」



精神科救急医育成講習会 (南大阪)

2月5日(月)夕刻17時より、大阪精神科病院協会主催の精神科救急医育成講習会が開催されました。この講習会は、毎年、大阪の南、北、東のブロックごとに会員病院で開催されています。

テーマを「災害医療」とし、大阪医療センター救命救急センター医長若井聡智先生(厚労省の

DMAT事務局次長として活躍される)とDPAT事務局を務められるさわ病院緑川大介先生をお招きしての講演2題とディスカッションという構成での講習会でした。他の医療機関からも8名の聴講と院内参加者を合わせ80名が参加する盛況な会でした。

若井先生のお話では、DMATは阪神淡路大震災をきっかけに、編成され、東日本大震災や熊本地震での活動など説明されました。熊本地震では東日本より多い595のDMAT隊が災害支援を行ないました。また、熊本では、患者避難を行った11の病院中、精神科の病院は5病院と、精神科の被災も多いためその対応は課題の一つとお話になりました。また地震など災害時は、時間の経過とともに医療より保健、福祉などが重要になります。感染症の防止や、被災者の今後の生活、病気治療状況など、また支援者のケアも重要であることもお話されました。

緑川先生のお話では熊本地震の患者避難病院は、7病院となっており、DMATと、DPATの連動が不十分であることも報告されています。また、患者避難を決めた病院の避難までにかかる時間の長さを指摘されたこと、病院全避難の際の、患者さんを一旦集める施設のない事が時間のかかる原因であったことなど説明されました。パネルディスカッションでは、当院の災害対応の状況と院内での教育活動について、情報提供がなされ、会場及び、若井先生、緑川先生からコメントをいただきました。



第36回 児童精神科領域研究会 「キレル」はこころのSOS

原田 謙先生
(長野県立こころの医療センター
駒ヶ根 副院長)

2月10日(土)寒さもピークの頃、今年度4回目の児童精神科領域研究会を開催し、長野県より原田謙先生にお越しいただきました。今回は大阪府立大学の学術センター大ホール(白鷺ホール)をお借りして開催いたしました。

お話は「キレル」子どもに焦点を当て、どういう状況がキレル子どもを作るのか、子どもがキレル時の対応や日常での対応、そして発達などの問題を抱える子どもとのかかわりについて丁寧に解説いただきました。私たちは普段起こる様々な出来事の中で、不当性を感じたりすることで不満が起り怒りの感情を持ちます。子どもも同様ですが、怒りをうまく扱えず、抑え込みすぎて爆発する子など問題行動は子どもからのSOSであり、行動だけとらえて叱責し罰を与えても解決しません。「この子は何を不当だと感じているのか」「なぜ怒りが抑えられないのか」と疑問を持つことが支援のスタートと説明されました。その上で、担任や家族などみんなで考えることが大切で抱え込まないでください。

子どもがキレル時には子どもの見方(味方)になりましょう。気持ちに寄り添い共感できなくても思いを共有することが大切です。そして最も大事なことは子どもに「自分は大事に思われている」と感じてもらうことですとお話になりました。先生の病棟では、一緒に楽しむことを目的に「シェアタイム」を作り、週に1~2回、1回20分~1時間、子どもに指導権を与え関わることを続けておられます。わかりやすいお話しに、小中学校の先生方も熱心にメモを取って聴いておられました。



西野 精治先生
(スタンフォード大学 医学部 教授)
(スタンフォード大学 睡眠生体リズム研究所 所長)

2月3日(土)世界最高峰といわれるスタンフォード大学の睡眠研究、そのトップを務め、睡眠研究をけん引される西野精治先生に、昨年著されたベストセラー「スタンフォード式最高の睡眠」のエッセンスも含めて講演いただきました。

1950年代にレム睡眠という現象が発見されたことが睡眠研究の転機になっており、歴史は浅いものの、睡眠は生活の中にあり、外的要因や身体的疾患、そしてストレスなどで乱れやすく、だれもがその必要性を認識する身近なものです。睡眠を管理して活力ある生活がしたいというのは現代人誰もが願うことではないでしょうか。

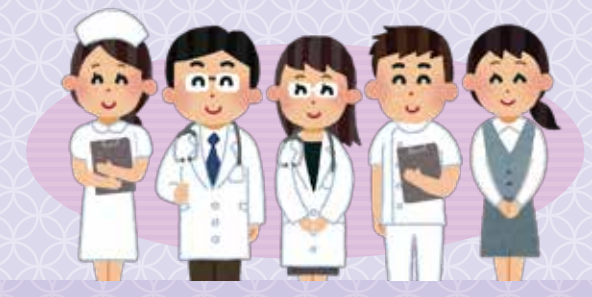
さて、私たちの睡眠は、ノンレム睡眠(深い眠り90分)+レム睡眠(短い眠り)から始まり、このサイクルが明け方まで4~5回続きます。明け方はレム睡眠が長くなります。最初の深い睡眠は、成長ホルモンが作用し新陳代謝に有効です。また最近では睡眠が免疫を強化し、寝ないと感染症になりやすいという研究結果もあるようです。この最初の90分を著書では「黄金の90分」と紹介されています。

また、NHKの調査では、1960年代、日本人の平均睡眠時間は8.5時間、それが現在は7時間14分です。また10時までに就寝する人が7割だったのに対して現在は2割とのこと。睡眠不足を感じる方が多いのも納得です。この睡眠不足、スタンフォードの研究では「睡眠負債」ともいわれ、単なる不足ではなく、利子がたまるように、慢性的に負債を抱えるものと捉えられています。生活の質を高めるための「質の良い睡眠」生活リズムを整えることも含め心がけたいですね。

平成29年度 事業報告会

2月14日・15日の2日間で行われた事業報告会では、昨年4月に各職場が作成した事業計画の成果や進捗が報告されます。院長、副院長、各部門長といった幹部に対し、計43の部署が15分の持ち時間でビジョンに対する戦略や、その年次報告及び進捗状況、各部の計画を推進する上での、成功要因や阻害要因も含めて課題を出し、次年度の計画につなげていきます。発表者は15分で終わりますが、聞き手の病院幹部は2日間、次々に報告が続くので大変です。

報告会が終わると、いよいよ次年度の事業計画の立案です。当院では、4月に病院長より、年度の事業計画が発表され、それを進めるために各部署が計画を作成します。慌ただしくも、各部署が足並みをそろえ、しっかりと医療実践するためには重要な行事です。



管理職者泊まり込み研修

3月最初の週末は、毎年管理職者の泊まり込み研修が開催されます。近くのホテルで、約1日かけて次年度の事業計画の立案をします。今年は3月2日(金)終業後の18時スタート、3日の15時まで研修会を行いました。当院の事業計画はBSC(バランススコアカード)を用いて作成されます。SWOT分析では当院の「強み」「弱み」「チャンス」「脅威」を部署、職種混在のメンバーで意見を出していきます。

開会が18時、1時間程度のオリエンテーションの後、5グループに分かれて事業計画を作っていきます。さすがに、全員参加というわけにはいきませんが、ほとんどの管理職がそろい、計画・立案・発表まで行いました。限られた時間のため、忙しい2日間ですが、各グループから出てきた事業計画を、院長がまとめ、4月にその年の事業計画として発表されます。これも年度末の大切な病院行事です。